【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名 玄海町立玄海みらい学園

1 前年度 評価結果の概要
 ・授業力向上に向け、一人一授業公開を全職員で行った。授業者が工夫した手立て（ICT等の活用等）をTeamsで共有し、授業改善につなげることができた。前・後期でサガン夢先生等の体験活動の取組をより一層充実させたことで、児童生徒一人一人の夢や志を育み、進路意識を高めることができた。
 ・各種アンケートをオンラインで行ったことで、業務効率化につながったが、情報モラルや特別支援教育に課題が見られたので、心の教育の充実を推進する必要がある。
 ・義務教育学校として、ミドルリーダーを中心に学年による横の連携や校務分掌による縦の連携を強化することで、業務の効率化が進み、学校全体の協働体制が構築されてきている。

2 学校教育目標
 みらいをひらく ～「すき」を見つけ、「よさ」をのばす～

3 本年度の重点目標
 ① 主体性の深化と発展を目指した義務教育9年間の学びの充実
 ② 特別支援教育の推進と校内支援体制の充実
 ③ 組織力を活かした業務の改善と時間外勤務時間の縮減

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・「書く」「話す」など自分の考えを伝え合う学習の充実と家庭学習の習慣化	○児童生徒によるアンケートで「自分の考えを伝える(書く)ことができた」に肯定的に回答する児童の割合が80%以上 ○家庭学習の各学年の目安時間を達成している児童生徒が75%以上	・授業中、児童生徒が必然的に書いたり話したりする授業づくりを行う。 ・授業力向上月間を設定し、相互に授業を見合い、児童生徒が目的をもって学習を進める授業づくりを行う。 ・「家庭学習の手引き」や「学習リズムチェック表」を配布し、家庭学習に対する保護者の意識を高める。 ・チャレンジタイムを活用し、基礎学力の定着を図る。					・学力向上コーディネーター ・研究主任 ・学習部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○前期課程の縦割り遊びを年6回以上行い、異学年との交流を図る。 ○縦割り班での奉仕活動や集会を行う。 ○人権集会を年7回行う。	・前期課程児童による縦割り遊びを行う。 ・縦割り班で1年生を迎える会、仲良くなろう集会、校内奉仕作業を行う。 ・人権集会の実施や授業を通して人権・同和教育を行い、学校全体で指導にあたる。					・特別活動主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめに気づき、注意したり、先生に知らせたりできる」という肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○いじめの発生時に組織的な対応ができていると肯定的な回答をした職員90%以上	・毎月末の生活アンケートを活用する。 ・発生したいじめ事業をその日のうちに共有できるように、生徒指導部が中心となり、管理職の指示のもと全職員と連携を図る。					・生徒指導主事 ・生活指導主任
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・朝の時間に職員による講話「みらいSEED」を実施し多様な考え方や生き方について学ぶ。 ・学校行事の中で「出番」「役割」「承認」を実施することで、自分のよさや可能性に気づき自己肯定感を高める。 ・外部講師を招き、将来の夢や日頃の取り組みについて話を聞くことで将来の自分について考える時間をとる。					・学習部 ・道徳主任
	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上、生徒80%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上	・屋外には体育館や運動場の使用割合を決めて開放する。 ・ゲストティーチャーを招き、リズムトレーニングに取り組むことで体を動かす楽しさを体験させる。 ・校内持久走大会を実施し、体育の時間や休み時間に運動場を走ることを呼び掛ける。(前期) ・部活動への積極的な参加を呼び掛ける(後期) ・朝食喫食や残菜0を呼びかける。 ・給食だよりを発行し、保護者への啓発を図る。 ・給食時間の指導や授業などで、食に関する指導を実施する。					・体育主任 ・学校栄養職員
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「時間外在校等時間の上限を意識して改善に努めている」と回答する職員の割合90%以上	・定時退勤日及び部活動休養日を設定し、履行する。 ・業務改善を視野に入れてデータを整理することにより、業務の効率化を図る。 ・業務記録を確認し、意識の向上と業務の効率化に取り組む。					・管理職
●特別支援教育の充実	○児童生徒一人ひとりの理解や個に応じた指導・支援の工夫・改善	○児童生徒一人ひとりの実態把握と理解をめざし、各学期に一回以上、全職員による情報共有の場を設ける。 ○特別支援の視点を取り入れた、全職員対象の研修を年に一回以上行う。	・年度初めや学校行事の前など、適切な時期に要理解児童生徒について情報交換の場を設けたり、ケース会議を開いたりしてよりよい支援につなげる。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりについて共通理解を図る。					・特別支援コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
○地域を生かした学びの充実	○9年間を貫く海洋教育の取組	○実施計画に掲げる目標の達成率を80%以上にする。 ○各教科等の学習内容に「海とのつながりを見いだすようになった」と回答する児童生徒を90%以上にする。	・現地調査・分析、体験活動 ・ゲストティーチャーを招聘しての探究活動 ・児童生徒による情報発信活動					・副学园长

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望